

# 大空 (生徒・保護者向け) 41号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年7月13日(火)

## 後悔する前に(夏季図書貸し出し案内)

### □本日の概要

- 本日紹介する文章は、かつて私が国語の教師として勤務していた大宮高校の図書便りに掲載されたものです。(もう10年以上前のことです。)
- 当時、大宮高校の保護者に「日本講演新聞」(宮崎中央新聞社)の編集長である水谷もりひと氏がいらっしゃって、この図書便りが「日本一心を揺るがず新聞の社説2」の中で、「後悔との出会いが飛躍のとき」というタイトルで紹介されました。自分の思いが誰かに伝わっていたことに感動した体験でしたので、敢えて昔の原文のまま再掲しました。
- 本校では、7月12日より夏季図書貸し出しが始まっており、何と10冊も借りることができます。読書は、人を確実に成長させる普遍的な体験です。10代で読まなければならない本が確実に存在します。夏休み前、皆さんに強く訴えたいのは、読書です。この夏、ぜひ、本を読んでください。

### □後悔する前に(大宮高校図書館便りより)

私は、書店や図書館、あるいはレンタルビデオやCD店等に行くと血圧が上昇し、目まいと吐き気と腹痛を覚え、倒れそうになります。それは、その場に渦巻く、膨大な知のパワーに圧倒されるからです。私が一生かかっても、この書店の本でさえ読み尽くすことは不可能だ…まして図書館に至っては読んだことのない本ばかり。

私の知らない文豪の幻や、様々な知性のオーラが息苦しいほど立ち上り、亡霊のように私の耳元でささやくのです。「おい、お前は俺の本も読まないで、よく国語の先生をやっているな…」と。

レンタルビデオやCDもまた然り。「好評レンタル中」、「ランキング〇位」という派手なポップの影に、不朽の名作、すばらしい作品が埋まれています。「一生かかっても、この映画やCDをすべて見たり聴いたりすることは不可能だ」と思うと悲しくなります。この中には、自分の人生を変える、素敵な作品や音楽があったかもしれないのに…。

どんなに文明が進歩しても、人間の持ち時間は一日24時間しかありません。限られた時間を有効に使うためにも、私は情報にフィルターをかけ、漉しとられた大切なものだけに向き合うようにしています。一応ネットやメールも利用しますが、あくまで仕事上の便宜。もし、メディアを選べと言うなら、テレビも捨てるでしょう。ゲームも時間の浪費です。究極のメディアは、やはり本。大切な時間は、読書に割くべきです。

信頼できるフィルターの一つに「時間」があります。時代を超えて、生き残ってきた古典は、必ず読む価値があります。古典といっても、古文とは限りません。古典的名作と言われる作品は、現代の作品にも多いのです。もちろん、いわゆる古文も読んで欲しいのですが、抵抗があ

るなら、古文の世界を舞台にした文学作品など  
どうでしょう。芥川が有名ですが、太宰の「新  
釈諸国話」「お伽草子」など最高です。私は、こ  
の太宰の作品で西鶴のおもしろさを知りました。  
源氏物語なども、漫画「あさきゆめみし」から  
入門し、現代語訳を読んでみましょう。絶対に  
お勧めです。

また、私が良く利用するフィルターは人の評  
価です。これは、「〇〇賞受賞」のような社会的  
に権威ある評価（映画ならアカデミー賞とか）  
もあれば、書店の広告、手書きのポップ、レン  
タルランキングや、ネットの口コミ評価も参考  
にします。もちろん、この方法には賛否両論あ  
ります。頼りすぎると、他者の評価ばかり気に  
するようになり、自分の評価基準が育たなくな  
る危険性があります。しかし、時間がない現代  
人にとって、自分の力だけで良いものを探すこ  
とには限界があると思うのです。「他者の評価」  
は、使い次第では便利な道具です。

中でも、同世代の人の評価は、自分の感性に  
近いためか、すてきな本に出会えます。友人か  
らのお勧め情報も大切です。私は高校時代、友  
人の薦めで井上靖や夏目漱石を読み始めまし  
たが、私の大好きな作家になりました。考えてみ  
れば、山本周五郎（父の勧めでした。）、宮本輝  
（妻の好きな作家です。）、宮尾登美子、重松清、  
司馬遼太郎、その他多くの作家が、皆、誰か  
のお勧めでした。よい本を紹介してくれる人は、  
間違いなく良い人です。自分にあった本を紹介  
してくれる友人を持ちたいものです。

最後に、本は出会うべき時があり、それを逃  
してはならないということ覚えておいてくださ  
い。幼児期に素敵な絵本と出会い、学童期に良  
質の童話やファンタジーと出会うように、やは  
りその時々に出会うべき必読図書のようなもの  
があるのです。私は幼い時、「フランダースの犬」  
を読んで号泣しましたが、今、読んでも、残念  
ながら泣くことはできません。（泣くことができ

なくなった自分が悲しくて涙がでますが。）同  
ように、太宰治などは、十代の時に出会わな  
ければ、鼻につくいやな作家に見えるかもしれ  
ません。

本屋大賞を受賞し、映画化された「夜のピク  
ニック」の中に、主要人物の一人である西脇融<sup>にしわきとおる</sup>  
の親友である戸田忍<sup>とだしのぶ</sup>が、自分の読書体験を熱く  
語る場面があります。戸田忍には、お勧めの本  
をプレゼントしてくれる素晴らしい従兄弟がい  
るのですが、彼はその本を読みません。そんな  
時、彼が幼い頃プレゼントされた「ナルニア国  
物語」を、高校生になってふと手に取ります。  
読み終えた後の時の気持ちを、彼は一緒に歩い  
ている西垣融にこう語ります。

「最後まで読み終わったとき俺がどう思ったか  
というと、とにかく頭に浮かんだのは『しまっ  
た！』という言葉だったんだ。なんで、この本を  
もっと昔、小学校のときに読んでおかなかっ  
たんだろうって、ものすごく後悔した。せめて中  
学生でもいい。十代の入口で読んでおくべきだ  
った。そうすれば、きっとこの本は、絶対に大事  
な本になって、今の自分を作るための何かにな  
っていたはずだったんだ。そう考えたら、悔しく  
てたまらなくなった。従兄弟は、闇雲に本をくれ  
ていたわけじゃなかった。うちのきょうだいの年  
齢や興味の対象を考えて、その時々にはふさわ  
しい本を選んでくれていたんだ。従兄弟が本を  
くれたときに、すぐ読んでいけば、従兄弟が選  
んだ順番に、素直に読んでおけば、こんなこと  
はなかったのに。あれくらい悔しかったこと  
って、ここ暫く思いつかないな。」

戸田君の後悔は、そのまま君に当てはまり  
ませんか。彼が「ナルニア」に出会い損ねた  
ように、今、出会わなければ、取り返しのつか  
ない、そんな本がたくさん君を待っているの  
です。